



報道関係者 各位

平成25年3月19日
横浜市
東京急行電鉄株式会社

「次世代郊外まちづくり」の主要な取組の一つとして 「暮らしと住まい再生部会」を立ち上げました！

～ 第1回部会を3月13日に、たまプラーザで開催～

趣 旨

横浜市と東京急行電鉄株式会社（以下「東急電鉄」という。）は、平成24年4月18日に締結した「次世代郊外まちづくり」の推進に関する協定に基づき、「次世代郊外まちづくり」の主要な取組の一つとして「暮らしと住まい再生部会」を設置し、**第1回部会を3月13日に開催**しました。

この部会では、住み慣れた地域で高齢者や子育て世帯などの多世代が安心して住み続けられるまちを目指して、たまプラーザ駅北側地区（横浜市美しが丘1～3丁目）を対象に、「次世代郊外まちづくり」の主要なコンセプトである「コミュニティ・リビング」を実現するための「グランドデザイン」や、「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」の他のモデル地区での取組の成果も踏まえて、郊外住宅地の課題を一体的に解決するための「横浜型モデル」について検討を行います。

「暮らしと住まい再生部会」の概要

（1）目的

この部会では、たまプラーザ駅北側地区（横浜市青葉区美しが丘1～3丁目）を対象に、「次世代郊外まちづくり」の主要なコンセプトである「コミュニティ・リビング」を実現するための「グランドデザイン」や、郊外住宅地の課題を一体的に解決するための「横浜型モデル」について検討することを目的としています。

（2）主な検討項目

たまプラーザ駅北側地区のグランドデザインに関すること
・郊外住宅地に必要な機能の整理、誘導方策について
・団地、戸建て住宅地の持続・再生手法について
郊外住宅地の課題を一体的に解決する「横浜型モデル」に関すること

（3）部会の構成

| | |
|-----------------------------|------------|
| 東京大学 工学部都市工学科教授 大方 潤一郎 | 横浜市 |
| 慶應義塾大学 総合政策学部教授 大江 守之 | 東京急行電鉄株式会社 |
| 千葉大学 工学部都市環境システム学科教授 小林 秀樹 | |
| 東京大学 工学部都市工学科准教授 小泉 秀樹 | |
| 横浜国立大学 都市イノベーション研究院准教授 野原 卓 | |

(4) スケジュール

平成25年3月～7月 グランドデザインの検討
平成25年8月～12月 「横浜型モデル」の検討

(参考) これまでの主要な取組

「医療・介護連携の地域包括ケアシステム推進部会」(平成24年11月30日設置)

目的：高齢者が地域で自立した生活を送ることができ、住み慣れた地域で安心して自分らしい生活を実現できる在宅医療システムと医療・介護が連携した地域包括ケアシステムの仕組みづくりを、地域の実情や特性に沿った形で地域の医療・介護関係者と公民が連携して構築していく。

「スマートコミュニティ推進部会」(平成24年12月11日設置)

目的：快適かつ省エネルギーな街づくりを目指し、既成市街地における生活者中心のスマートコミュニティ化を目的とし、短期的にはたまプラーザ駅北側地区内に居住する住民と地域ぐるみでの家庭内エネルギー管理システム(HEMS)や、マンションエネルギー管理システム(MEMS)の導入、エネルギーの見える化(少エネルギー・ネガワットキャンペーン)を目指す。中長期的には、地域エネルギー管理システム(CEMS)・自律分散型・地産地消のエネルギーシステムの構築を目指す。

* 「次世代郊外まちづくり」は「既存のまちの持続、再生」を目的に、地域住民、行政、大学、民間事業者の連携、協働によって「暮らしのインフラ」と「住まい」を再構築し、少子社会、高齢社会の様々な課題を一体的に解決していくことを目指していく従来にない参加型、課題解決型のまちづくり手法で進めるプロジェクトです。横浜市が推進している「環境未来都市」計画において、超高齢化対応の主要な取組である「持続可能な住宅地プロジェクト」として位置づけているものです。

* 「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」は、「磯子区洋光台周辺地区」、「緑区十日市場周辺地域」、「青葉区たまプラーザ駅北側地区」の3つのモデル地区で実施しています。

* 「次世代郊外まちづくり」の詳細は、下記ホームページをご参照ください。

ホームページアドレス：<http://jisedaikogai.jp>